

洋書輸入協会会報

VOL. 23

NO. 12

(通巻272号) 1989年12月

理事会報告

10月24日(火)

(一) 九月份収支計算・予算対比表

10月6日(金)の総務委員会での検討にもとづく松井幸雄氏(丸善)の報告を承認した。

(二) 社名と住所変更

インターナショナル トムソン パブリッシング
インターナショナル ディヴィジョンがトムソン パブリッシング ジャパン (Thomson Publishing Japan)と社名を変更し、千代田区平河町1-7-11平河町根本ビル6Fに移転したことが報告された。電話ならびにファックス番号に変更はない。(「会報」10月号参照)

(三) 洋書まつり

10月20日(金)、21日の両日古書会館で開催された古書まつりは、入場人員、売上げ金額、売上げ冊数、マス・コミによる報道など、どの点からみても空前の盛況であったことが報告され、今後の開催が期待されているので、この催しの継続への協力が要請された。なお出品は21社(正会員19、賛助会員2)であった。(「会報」11月号参照)

(四) 広報活動

佐々木大刀夫広報委員長(第一出版貿易)から、HBJ 皆川純一郎氏がJBIA 会員名簿を47部フランクフルト

書籍展に携行し、外国出版社に配布したところ、たいへんな好評であったが、部数が不足であった旨報告された。次年度版についても、今後検討することとなった。明年2月に開催される第一回東京国際書籍展に際し、主催者のカーナース社からJBIA へブースを無償で提供するとの申出であり、10月23日の広報委員会で検討した結果、積極的に対応することとなった旨報告され、了承された。ディスプレイに約5万円を要し、また印刷物を作製する必要があり、人員の派遣も必要であることも了承された。明年のフランクフルト書籍展は「日本年」となることが決定されている。日本書籍出版協会が中心となってこれに応ずるが、JBIA もサポートする必要があることについても意見が交わさるた。

(五) カナダ出版社代表团

11月11日から17日まで10名の代表团が来日する旨事務局長から報告された。JBIA 会員に対しては個々に連絡するとのことである。

(六) その他

渉外委員会主催の韓国視察団へは8社の、明年の米国大学出版協会大会への申込みは2社(一社はABAにも参加)であることが報告された。

理事会報告……………1	総代理店ご案内……………4	視察団レポート……………6
洋書輸入協会史(48)……………2	Book Review No. 128 ……5	文化厚生委員会だより
文化厚生委員会だより	お知らせ……………5	第53回72会ゴルフコンペ ……7
フォーティー・ラブ秋の合宿報告 ……4	JBIA 韓国洋書輸入	広告……………8

洋書輸入協会史 (48)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

56 ドイツ新刊書籍展の開催 (前号よりの続き)

56.3 開催延期

ドイツ新刊書籍展は、昭和30 (1955) 年5月に、日独協会からの来春 (昭和31年) 開催の申し入れを、同業会として引き受けたのであるが、これが延期となってしまった。その経緯は昭和30年12月1日付、海輸第129号によると次の通り。

記

西独書展延期の件

海輸第109号にてお知らせ致しました来春開催予定の西独書展覧会について、ドイツ大使館より、来年度は米国にて開催の先約があり、日本では開催不可能となった旨正式に通知があったので、出来れば昭和32年春に延期を願いたいと、日独協会から電話がありましたので左様お含み置き下さい。

昭和32年の開催については、未だ期間もありますので、改めて御相談致したいと思います。(以上)

何となく釈然としかねる内容であるが、ともかくこれで昭和32年の春まで、一時延期となった。

56.4 再度の開催延期

昭和31 (1956) 年秋に、今度はドイツ大使館から知らせがあり、昭和32年の春から秋へと再度の延期となった。昭和31年10月20日付の海輸第157号によれば、その経緯は次の通り。

記

独乙書展覧会延期の件

予て (かねて) 御案内申し上げました独乙書展覧会について、今般在日独乙連邦共和国大使館文化部員 Dr. Barbara Kraft より再度延期の旨通知に接しましたからお知らせ致します。

来信の訳文

拝啓 陳者 (のふれば) 先般御話申し上げたる件に関し、今一度書面を以て左記の如く御通知申し上げます。即ち、当大使館としては、クリスチャン・ウェーグナー氏が、当地にて開催予定の大ドイツ書籍展打ち合わせの

為、ドイツ書籍商取引所協会代表として本月来日の予定であった処、右を延期することとなり、誠に遺憾に存じています。ウェーグナー氏は最近の書面で、1957年2月半ば過ぎには右打ち合わせのため来京すると、大使館宛に申してきております。展覧会を来年の秋に開催することについては、確然と同意しています。なお詳細の点についてはその都度お知らせ致します。 敬具

1956年10月15日

ドクトル・バーバラ・クラフト

在日独乙連邦共和国大使館

56.5 書籍展開催の概要決まる

昭和32 (1957) 年に入ると、早速にドイツ連邦共和国大使館の文化部長の Dr. Wilhelm Löer 氏より、Wegner 氏の予定を知らせてきている。やがてそのウェーグナー氏も到着し、上記のロエル氏、日独協会の小島専務理事、国立国会図書館品田館長次室長と、同業会理事一同と協議の結果、次のような概要が決ったので、これを2月1日付海輸第2号で次のように会員に知らせている。

記

1. 展覧書籍 ドイツ書籍及び雑誌 3,500~4,000点 (販売せず、展覧会のみ)
2. 主催 Vörsenverein des Deutschen Buchhandels
国立国会図書館共催 (本同業会は後援)
3. 東京会場 国立国会図書館 羽衣間
4. 会期 本年9月17日より27日まで
5. 地方開催 札幌 10月15~20日
仙台 11月2~7日
大阪 11月20~26日
福岡 12月6~12日
名古屋 来年1月15~21日
6. 費用 全部ドイツ図籍販売取引所支出
7. 展示世話 国会図書館、同業会員は会期中会場の手伝い
8. 目録 全出品書目録を作り、約5,000冊を会場で無料配布。この目録は書店の希望分を増刷し実費で頒布する (以上)

なお、目録のゲラ刷りは5月に同業会宛1部送附されるので、同業会で複写して会員に配布することとし、会員はこの目録で販売用ストックオーダーを行うこととなった。

3月には、この目録の会員よりの希望が、31社、計12,000部に及び、ゲラ刷りを1部でなく30部送るようメクレンブルグ商会の鈴木氏に依頼するなど、理事会での毎回の打ち合わせと共に、準備が着々と進捗している。

5月には、目録に同業会会員全部の名簿をつけることとなり、そのゲラ刷りが送られてきた。これの校正は急ぐので、関西方面は緑書房の丹羽氏に、神田方面は国際書房の服部氏に、その他は丸善で各社のコンファームを取り返送している。

56.6 開催に当って

開催準備がすべて終了した開催前日の9月16日には、同日付の海輸第36号で概要のようなことを伝えている。即ち、開会式はドイツ出版協会理事のChristian Wegner氏、並に助手のWalter Müller-Römhild氏を迎えて国会図書館で行うこと、地方における開催は、各府県教育委員会がドイツ出版協会と共に主催すること、同業会はドイツ大使館と共にこれを後援すること、などである。

また地方会場は次のように決った。

札幌	富貴堂書店二階ホール
仙台	宮城県立図書館
大阪	府立図書館
福岡	商工会議所ホール
名古屋	市立鶴舞図書館

ドイツ大使館は、展覧会の開催に当って次のような発表をしている（抜粋）。

記

日本におけるドイツ書籍展

ドイツ連邦共和国における最近数年間の出版物中から精選した書籍を展示する「ドイツ書籍展」は、日本の図書館や書籍輸入商の勧奨に基づいて、フランクフルトの「ドイツ出版協会」の手によって準備されたものであって、在日ドイツ連邦共和国大使ドクトル・ハンス・A・クロルの後援ということになっている。

1945年以後にドイツの出版活動の代表的展示会が太平洋地域で開催されるのは、之が初めてのことである。

日本ではこれより先に2回小コレクションの展示会があって、ドイツ書籍に対する大いなる関心の程が確認された。即ち日本の一輸入書籍商は、1951年（昭和26年）に幾つかの都市で通俗及び専門書籍、青少年図書の展示会を行い、その2年後には特に文学、語学、社会科学に関するドイツの教科書をもって同様な展示会を行った。

ドイツ連邦共和国にある全出版社は、この代表的な催しに参加するよう要請された。378の出版社が3,397点の書籍を出品した。コレクションの重点は科学的な出版物におかれている。（中略）

展示物中特別部門となっているのは「1956年の最も美しい書物」50冊である。これは内容に関係なく、毎年印刷及び書籍業者の中立的な専門家の委員会によって選ばれ、模範的出版物の見本である。

1年の出版が16,660点（1956年）で、出版社数が1,935社であるのから考えると、選出された書物と参加出版社の数は少ないように見えるかも知れない。しかし選定された書物は、全出版界にとって模範的なものと見られてよいものであり、日本の書籍商にとって、特に関心の深い方面のものを示している。（以下略）（ドイツ大使館文化部発表）

ドイツ大使館は、以上の他にも、大使ドクトル・ハンス・クロル氏のメッセージ、「1956年における最も美しい書籍」に関する一文「戦後におけるドイツの図書販売」の説明文などを用意し、宣伝につとめている。

56.7 開催結果

12月18日、同業会の12月懇談会が開催されたが、その報告が12月20日付の海輸41号で会員になされている。それには、このドイツ新刊書籍展につき「メクレンブルグ商会鈴木連絡員から、ドイツ書展につきまして、明年1月開催予定の名古屋を除き、それぞれ無事終了し、好評であった旨報告がありました。」と記されている。

また名古屋を含めた展覧会の全スケジュールを終了後、同じく鈴木氏から、下記のような入場者数の報告がなされ、昭和33（1958）年2月7日の同業会懇談会で発表されている。

記

ドイツ新刊書籍展入場者数

1957 (昭和32) 年 9 月	東 京 (11日間)	2,038名
"	10月 札 幌 (6日間)	1,088
"	11月 仙 台 (6日間)	714
"	11月 大 阪 (7日間)	1,019
"	12月 福 岡 (7日間)	506
1958 (昭和33) 年 1 月	名古屋 (7日間)	904

計 6,269名

このようにして、太平洋地域における戦後初めての公的なドイツ新刊書籍展は終了した。開催までに2度も延期されたことは、廃墟の中から立ち上りつつあった西独としては、止むを得ない事情があったのであろう。また西ドイツ側が、公的な立場を重んじたためか、開催場所の大部分が商業性と結びつかず、入場者もいささか少なかったように思われる。

しかしながら、西ドイツ側の熱意は充分に感じられ、ドイツ学術書の将来のために重要な布石となったことは、異論のないところであろう。(続く)

文化厚生委員会だより

“フォーティー・ラブ”(テニス同好会) 秋の合宿報告

10月28日(土)―29日(日)には定例の秋の合宿が行われました。その数日前から「台風28号」接近の予報をテレビが流しており、27日、金曜日、の夕刊によれば「台風が小笠原をうかがうように北上している。……」とのことで、ついにフォーティー・ラブの“晴れ運”にも例外が起りそうな気配でしたが、ふたが開いてみればさすがに秋晴れで、くっきり浮び上った“富士”を眺めながらの充実した合宿になりました。

この山中湖畔、ロッジ花月園の“マテフレックス・コート”は、ハード・コートのなかでも比較的ボールがよく滑るため、飛んでくるボールに合わせるための、細かい計算によるフットワークとラケットの素早いテイクバックが結び付いて、初めて良いボールを打ち返せるようです。インパクトの瞬間までボールを注視し、バランスの

とれた重心の移動によるリズムカルなラケットのスイングと、十分に長いフォロースルーによって、狙った方向へラケットとボールを運んでやることで、思った通りの早いスピードの返球が可能になるのです。“マテフレックス”は特許がきれて、現在は“スミコート”と呼ばれているとのこと。) 基礎体力、コンスタントな練習、そしていつも仲良しだけで楽しんでいることなく、積極的に沢山の相手、異なったコート、いろいろな周辺の雰囲気を経験することが強くなるためのステップだと思います。テニスにも“王道”はありません。

また忘年会で、新しい経験談や失敗談をお聞きするのを楽しみに、ご報告を終わります。幹事の皆様、いつもご苦労さま。(R. A. 記)

総代理店ご案内

紀伊國屋書店(株) Tel. (03)―354―0131

Oxford U. P. -UK-

SIPRI Yearbook, 1989.

1989: 06 -----¥13,600

Scientific DataLink -US-

Substance Abuse Index and Abstracts, 5 Vols.

1989: 07 -----¥144,000

B. Blackwell -UK-

SHP: Bronte Works, 20 Vols.

1989: 10 -----¥260,000

Columbia U. P. -US-

Concise Columbia Encyclopedia, 2nd Ed.

1989: 10 -----¥7,980

Maxwell Macmillan International -US-

College Blue Book 22ed.

1989: 10 -----¥43,000

北尾書籍貿易(株)

Tel. (06)203―5961

Foi Services Incorporated -USA-

The NDA Book, 2 Vols ---¥45,400

Drugs Under Patent ---¥14,300

「ナチス通りの出版社——ドイツの出版人と作家たち1886—1950」

山口知三／平田達治／鎌田道生／長橋美生子

人文書院 1989 ¥2,280

本書の題名をみると、1933年から45年までのナチス第三帝国時代にナチスに加担し、繁昌した出版社を扱った本かと思われる。それとは反対に、本書で扱われているのは、ナチスによって弾圧された文学書を中心に出版活動を行った出版社と出版人、そしてそのような作品を書いた作家たちである。ドイツ現代史に占めるナチス支配期のもつ重さゆえに、出版社の歴史を通してドイツ現代史に迫ってみたいというのが著者たちの意図である。

とりあげられているのは、1886年創業のS.フィッシャー社、1909年創業のグスタフ・キーペンホイアー書店、1908年創設されたローヴォルト書店、1916年雑誌「新青年」から始まったマーリク社の四社である。

これらの出版社は第一次世界大戦前の古き良き時代のドイツ市民階級の勃興期から、第一次世界大戦、ワイマル共和国を経て、ナチス第三帝国の時代を生きてきた。本書で最も興味をそそるのは、これらの出版社がこういうドイツ現代史の激しい流れにありながら、闘ってきたその姿である。ナチス時代にS.フィッシャー社は経営者がユダヤ人であったがゆえに、やむなく二つに分割され、ベルリンに残された部分はペーター・ゾーアカンパに委ね、二代目のベルマン・フィッシャーはウィーン、ストックホルム、ニューヨークと亡命をつづけながら出版活動をつづけた。キーペンホイアー書店ではユダヤ人であった社の幹部は亡命せざるを得ず、しかも出版物の75%が焚書押収など

の処分にあって廃業同然に追いこまれた。右岸から左岸におよぶ広い範囲の本を出版していたローヴォルト書店でも書籍の約半分が発禁にされ、焼かれ、社の作家の半数以上が追放されたり、強制収容所に入れられたりし、「帝国文化院法」「編集者法」の網の目をくぐりながら、規模を縮小して生き延びようとするが1943年営業禁止措置をうける。「すべての革命的勢力の知的結集の貯水池」を目ざし、「はっきり急進的な反体制」をみせていたマーリク社のW.ヘルツフェルデはナチスの権力獲得と共にドイツを去りプラーハで活動したのちニューヨークへ移り、ここで「共同出版社」の形をとったアウローラ（曙光）出版社を設立した。

こういうドイツの出版社だけではなく、ナチス・ドイツが40年5月にオランダに侵入するまで、ド・ランゲ書店とクヴェードリード書店とがドイツ亡命文学出版部門をつくって、まだナチス・ドイツの支配が及んでいなかった東欧や中欧のドイツ語圏に亡命作家の本を供給したことが語られている。

しかし、エマヌエル・クヴェードリードがゲシュタポに逮捕され、アウシュヴィッツ強制収容所のガス室で殺されたような苛酷な運命が待っていたのであった。

出版社とそこで働く人びと、多くの作家たちと出版との結びつき、その相互の協力作業など、この60年間の四つの出版社の歴史がドイツ現代史との関連で記述され、たいへん興味をひく本である。(M. I.)

お知らせ

株式会社プレントイス・ホール リーゼンツの小野照男氏は、このたび取締役会長に就任され、後任の代表取締役社長に小野直人氏が就任されました。

ゴールドエンブック株式会社は下記に移転しました。

〒111 東京都台東区柳橋 2-15-5

第2真市ビル 5F

(電話・Faxは従来通り)

JBIA 韓国洋書輸入視察団レポート

かねてより JBIA 会員の方々の要望のありました韓国洋書輸入事情の視察は、HBJ の皆川社長のご尽力を得て渉外委員会企画され、今月 9 日より 3 泊 4 日で視察旅行が行われました。以下にご報告いたします。

11月9日(木)

USACO の山川社長を団長とする一行 7 名は朝 10 時に成田を出発し、約 2 時間の飛行でソウル金浦空港に到着、視察旅行の第一歩を踏み出しました。洋書店の老舗として知られる PANMUN BOOK の MR. Riu 社長差向けのマイクロバスで宿泊の LOTTE HOTEL にチェック・インし、早速 PANMUN の Young-Sook Chun さんの案内でソウル市内の南山公園へ向いました。公園内の海拔 360m の Seoul Tower からは人口一千万人のソウル市内が一望でき、1988 年オリンピック後の急速な経済発展を遂げた大都市に驚嘆しました。午後 4 時頃に韓国出版界の要人とも言われる Mr. Riu 社長を訪問し、今回のソウル視察に際して大変お世話いただいた事に対しお礼を陳べると共に、韓国の洋書市場について興味深いお話をうかがいました。夜には Mr. Riu 社長主催の夕食会があり、Harper & Row 日本代表のスレスキー氏も加わり和やかなひとときを過ごしました。

10日(金)

戦闘機の離発着も可能と言われる道路は巾広く整備されている様ですが、立体交差はほとんどなく、市内の高速道路も見受けられず一日中交通渋滞をきたしている様です。HYUNDAI 自動車の多く行き交う中、一行はソウル市南に白くうき立つ 7 階建ての国立中央図書館 (National Central Library) を訪問致しました。日本の国会図書館、東大などとも深く関わり、25 カ国から巾広く情報・文献の交換を図り収書している様子を Mr. Hwang Hoon-Song よりうかがいました。一行は国立中央図書館を後にソウル大学図書館 (Seoul National University Library) へ向いました。広大なキャンパスをもつソウル大学の中央に位置している図書館は、100 万冊の蔵書の他にマイクロフィルム・AV 資料も備え、海外からも多く購入し、年間 2 億円以上の図書購入予算があると収書課長の Mr. Ryu が話しておりました。夜は昨夜の夕食会のお返しとし

て PANMUN の Riu 社長を招き、由緒ある料理店のオンドル (床暖房) のきいた一室で伝統的な韓国料理に舌つづみを打ちました。

11日(土)

滞在中はソウル市内の交通事情のためか出発がしばしば遅れる事もありましたが、天候には恵まれ寒さも思っていたほどではなく穏やかでした。

午前中は韓国の科学技術院と言われる KAIST (Korean Advance Institute of Science and Technology) の図書館を訪問、図書館の Kim Hang Ja さんの案内で KAIST 全体の説明を受けました。1966 年設立の KIST (Inst. of Science & Technology) と 1971 年設立の KAIS (Advanced Inst. of Science) が 1981 年に統合され KAIST となりましたが、今年の 7 月には KAIST と KIST に分かれてしまったとの事で何とも複雑な経過をたどっている様子です。

午後は大手書店を訪問しました。土曜日の午後は人々が街にあふれて、どこの街角にも待合せをする若者が多く見受けられました。その人波をぬって 1,500 坪の売場をもつ KYOBO BOOK CENTRE、80 年の歴史をもつ老舗 CHONGNO BOOK CENTER、PANMUN の Book Shop、Science Publication Center と歩き回りました。

夜はさすがに冷え込んでいましたが、夕食を済ませると全員日中の疲れも忘れてハングル文字のネオンの街へくり出し、ソウルの夜をエンジョイいたしました。

12日(日)

朝 10:55 のソウル発ノースウエスト機で、手にはおみやげを携え全員無事に成田空港へ到着、空港で解散致しました。

ご苦労さまでした。カムサハムニダ……

(丸善・平瀬)

[参加者]

石内 茂吉 (東光堂書店)
西村 正徳 (西村書店)
鶴 三郎 (東亜ブック)
山縣彌栄子 (内外交易)
山川 隆司 (ユサコ)
大八木 進 (ユサコ)
平瀬 昌 (丸善)



南山公園にて

文化厚生委員会だより

第53回 72会ゴルフコンペ

前日がどしゃぶりの大雨だったので天気が心配でしたが、コンペ当日10月20日は絵に書いた様な秋晴。言い訳を探すのがむずかしいグッドコンディションの高根カントリークラブで53回コンペが行われました。以前はベスグロ優勝をしたこともある上杉さん(UPS)、最近では馬券の予想と、同じパーティーから優勝者を出すことだけを楽しみにしている様です。もうすでに3回連続上杉さんの同伴者が優勝しています。今日の注目は、日和田さん(紀伊國屋)、片倉さん(カタクラ)、小関さん(名著)ら3人の同伴者。午前中のハーフを終わって昼食に集まったメンバーはガヤガヤとスコアの聞き合い。誰が今優勝に近いかなどなど。ここで浮上したのが前回初参加で4位入賞の小関さん。なんと2位安田さんにネットで10打の差をつけて断然トップ。もうこれで優勝は決まりみたいな雰囲気の後半のプレイに。ところがプレッシャーがかかったのか小関さん後半大崩れ。優勝のゆくえは霧の中

という混戦。小関さん本人もあきらめて成績発表のパーティーに。でも残りました。他のメンバーの追い込みをかりうじて振り切り、逃げ切り優勝。

72会の男性達は女性を大事にします。これで上杉さんの同伴者優勝は4連続。ちなみにその後の他のコンペで5連続と記録更新中。後光がさし始めました。

優 勝	小関 妙子(名著普及会)	51, 63. Net 78
準優勝	日和田早苗(紀伊國屋)	49, 44. Net 82
3 位	安田 貢(丸善)	49, 46. Net 83

ベスグロ	日和田早苗(紀伊國屋)	93
ドラコン	鶴そのえ(東亜)、清水弘道(ナウカ)	
ニアピン	宮原隼人(丸善)、日和田早苗(紀伊國屋)	

(S. W.)

コミュニケーション国際百科事典 全4巻 INTERNATIONAL ENCYCLOPEDIA OF COMMUNICATIONS

新着在庫

全4巻、2,000p. 8 $\frac{1}{2}$ ×11インチ

写真650点、図解400点、地図35点、図表30点を収録

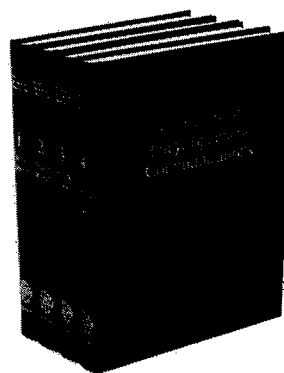
1頁2段組、背綴じ製本、堅牢バックラム装丁

ISBN 0-19-504994-2 (set)

定価 ￥66,500

(Oxford U. P., NY) -US-

(表示価格は税抜き価格です。
消費税を3%別途申し受けます。)



人間同士の伝達(コミュニケーション)を、現代の諸科学のさまざまな観点から見直し、解説する学際的な百科事典が出版されました。

本百科事典は、オックスフォード大学出版局(ニューヨーク)が研究・編集に6年あまりの年月をかけ、完成させたものです。執筆には、世界29ヵ国より選ばれた約450人の学者および専門家があたり、アルファベット順に収録された550項目の記事は総て署名入りです。

本百科事典で最も大きな特色は、ラジオ、テレビ、映画、ジャーナリズムなどの狭い意味でのコミュニケーションばかりでなく、下記のようなさまざまな分野とコミュニケーションの関わりについて解説している点にあります。

コンピュータ：人工知能から謀報活動まで、テレコミュニケーション・ネットワークから電子音楽まで、コンピュータの発展と社会および個人の生活の変化に関する約30項目を収録。

教育：J. デューイ、E. デュルケム、H. ケラー、ピアジェ、N. ウェブスター等の人物解説に加えて教育活動、教育の維持、教育機関(施設)の3つの観点からの解説約35項目。

歴史：古代における伝達に関する20項目を収録。

政治：コミュニケーションに関わる政府の規制について、約25項目を収録

その他、社会学、人類学、政治学、心理学、歴史、法律、芸術、音楽、文学、言語学、科学および工学、宗教、哲学などの分野におけるコミュニケーションとの関わりについて、さまざまな角度からの解説を収録します。また、一般的なコミュニケーション理論と研究についても充分にページをさいています。

新しい視点からのユニークな百科事典として広くみなさまにおすすめ致します。

日本総代理店

株式会社 紀伊國屋書店

電話問い合わせ先
(03) 439-0161

(新館) ☎156 東京都世田谷区桜丘5丁目38番1号 ☎(03) 439-0161

1989年12月 通巻第272号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎271-6901 FAX.271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329